

I.全道大会 (小樽・後志大会) ー 分科会編

●分科会はテーマを決めてみんなで意見交換を行う場です。

毎年行われる北海道建築士会全道大会の中の事業に分科会があります。

平成21年10月3日小樽市で開催された大会でC分科会は「北国のまちの未来予想図」～自分のまちに宛てたラブレター～というテーマで取り組みました。

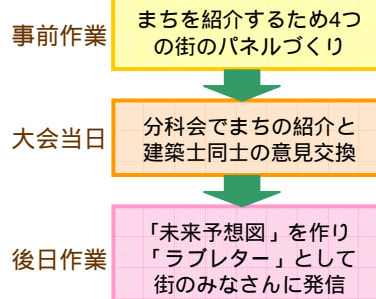
●北海道建築士会って何？ みなさんに知ってもらいたかったので「未来予想図」をつくる事にしました。

戦後の日本は高度経済成長の中で古いものを壊し最新の技術で新しいものを作り続けてきました。現在では、これまで築いてきた古きよき街の財産(ストック)を活用しながら、より心豊かに暮らすことを多くの人が望む時代に入ろうとしています。

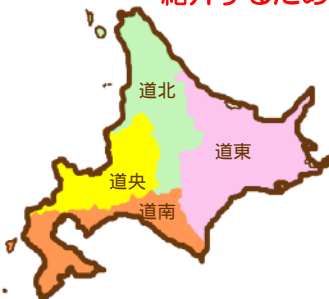
私たち北海道建築士会と街のみなさんが一緒にできることはなんだろう。その前にしなければならない事、それは北海道建築士会を「知ってもらおう事」でした。

古き良き街の歴史(ストック)を活用しながら、北海道建築士会が考える「未来予想図」を「ラブレター」として街のみなさんにお届けすることにしました。

C分科会



●全道の建築士会メンバーに自分の街を紹介するためのプレゼンボードを作りました。



事前作業で街のプレゼンボードを作りました。分科会で全道から集まるメンバーに自分の街を紹介するためです。

北海道建築士会は道内4つのブロックに分かれて活動しています。ボードはブロックから1つずつ代表に選ばれた街が作ることにしました。

まず街の歴史を調べることから始まりました。調べてみると発展の時代があったり衰退の時代があったり、意外な歴史があることに気づきました。

大会当日

●はじめに講演を聞きました。



分科会が始まりました。はじめに講師から小樽の自慢である歴史や職人の技(ストック)をどのように次の世代に残すよう活動されているかのお話を、映像を使いながら講演していただきました。



船職人やガラスの浮き球職人など、小樽にはたくさんの職人の方がいます。先生は職人の方達と一緒に「職人の技を体験できる観光」を広め、子供たちにもものを作る喜びを伝えながら小樽の歴史を次の世代に繋げる活動をしています。



藤田 和久(ふじた かずひさ)先生
1962年生まれ
NPO法人北海道職人義塾大学校事務局長

職人の技を体験しよう!

職人大學校

検索

パンレットはこちら

●ワークショップ(意見交換)を行いました。

テーブルごとに街を変えました。代表に選ばれた街のメンバーはプレゼンボードを使いながら自分の街を紹介しました。

講演を参考に、街の「困ったところ」から「未来予想図」を作るための意見を出し合いました。



道南ブロック



道東ブロック



道北ブロック

●テーブルで出た意見を発表しました。

分科会の最後に集まった意見を発表しました。他の街がすでに取り組んでいる事や、他のテーブルから出てきた良い意見をみんなで共有するのです。

意見は持ち帰って、さっそく「未来予想図」作りにとりかかりました。



道央ブロック

道東ブロック

街の紹介編と、未来予想図編につづきます